

DENON

PROFESSIONAL

DN-300CR

ユーザーガイド

安全にお使いいただくために

この取扱説明書で使用している危険防止のマーク



このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。



このマークは、適切な電圧で機器をしようしないと、感電の恐れがあるという警告です。



このマークは、ご利用出力コネクターが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

製品をご使用の際は、以下の使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を必ずお読みください。
2. 注意事項を必ずお守りください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むその他の音楽機器など、熱を生じる機器の近くには置かないで下さい。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに乗せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフターサービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でご利用ください。
16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカーで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
17. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
18. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。



このマークのついた製品は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に、アダプタのアース線を接地してご使用ください。

inMusic Japan 株式会社 カスタマーサポート部

東京都港区南麻布 3-19-23 オーク南麻布ビルディング 6 階

[Web] denonpro.jp/

[サポート] denonpro.jp/support

ユーザーガイド

はじめに

DN-300CRを既存のオーディオシステムに組み込む方法につきましては、このマニュアルの **セットアップ** の章をご参照ください。DN-300CRのオペレーション方法につきましては、**オペレーション**の章をご参考下さい。

同梱物

DN-300CR	リモートコントロール
電源ケーブル	ユーザーガイド/保証書

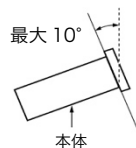
サポート

本製品の最新情報（システム要件や互換性情報など）は、DENON Professional の WEB サイト denonpro.jp をご確認ください。

また修理や操作方法についてのお問い合わせは、カスタマーサポート denonpro.jp/support/にご連絡ください。

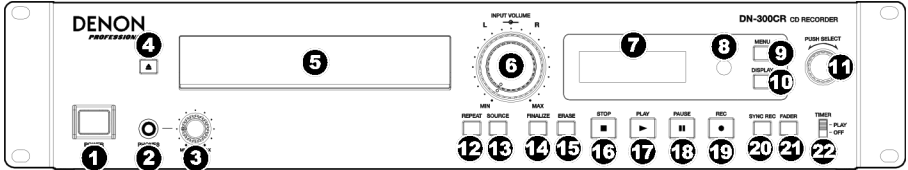
取扱い上の注意

- 本体の電源をオンにする前に** 全ての接続が正しく確実に接続されている事をご確認ください。
電源がオフ状態でも、一部の回路には給電され続けます。本製品を長期間使用しない場合には、電源ケーブルをコンセントから抜いて下さい。
- 換気について** 長期間換気が不十分である場合や、タバコの煙やほこりの多い環境で使用し続けると、光学読み取りレンズ部分に汚れが蓄積し、正しく動作しなくなる原因となります。
- 結露(つゆつき)について** 本体内部と設置環境の温度に大きく差が有る場合、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま1～2時間放置してから使用してください。
- 携帯電話使用時のご注意** 本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置でご使用ください。
- 本体の移動について** 本体を移動させる前に、必ず電源をオフにし、電源ケーブルをコンセントから抜いて下さい。次に、本体を移動させる前に、接続されているケーブルをすべて取り外して下さい。
- お手入れについて** キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。
クリーナー等の薬品をご使用の際は、その注意書きに従ってください。
ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。
- ラックマウントのご注意** EIA 規格の 19 インチラック
必要なラックの仕様 1U サイズ取り付け対応のラック
本機を支えるガイドレールや本機を載せる棚板があるラック
- ラック・インストレーション** 本製品は縦方向に 10°まで傾けてマウントした状態で正常に動作致します。本機が過剰に傾いていると、ディスクと出し入れが正常に行われぬ可能性があります。図をご参照ください。



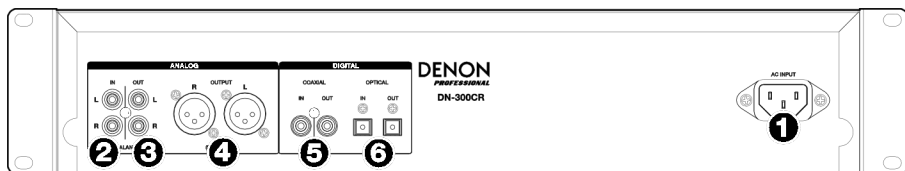
機能

フロントパネル



1. **電源**：本体の電源のオン・オフを切り替えます。電源が正しく接続されていることを必ずご確認ください。録音中・再生中は絶対に本体の電源をオフにしないでください。記録メディアが破損する可能性があります。
2. **ヘッドフォン端子**：1/4" (6.35 mm) TRSジャックを使用して、ヘッドフォンを接続します。
3. **ヘッドフォン音量調節つまみ (LEVEL)**：ヘッドフォンの音量を調整します。
4. **イジェクトボタン**：ディスクスロット内のCDを取り出します。
5. **ディスクスロット**：CDを挿入します。
6. **入力ボリュームL/R**：各アナログ入力チャンネル(L/R)の入力レベルを調整します。各チャンネルの入力レベルを個別に調整したい場合、一方のノブを抑えた状態でもう一方のノブを回します。外側のノブが左チャンネル、内側のノブが右チャンネルの調整です。
7. **ディスプレイ**：現在の操作など情報を表示します。
8. **リモートセンサー**：リモートコントローラーは、機器のセンサーに向けた状態で操作してください。
9. **メニュー ボタン**：メニューが表示されます。メニュー操作中にこのボタンを押すとメニュー階層を1つ戻す事が出来ます。
10. **ディスプレイ ボタン**：ディスプレイの時間表示モードを切り替えます。
11. **ジョグホイール**：トラックの選択、オプションの設定に使用します。ボタンを押すと設定項目やメニューを確定します。
12. **リピート ボタン**：リピート再生のオン・オフを切り替えます。
13. **入力選択**：録音する入力ソースを選択します。
14. **ファイナライズ**：ディスクに対してファイナライズの作業を行います。
15. **削除**：CD-RWを使用している場合トラックまたは、ディスク全体を削除できます。
16. **停止**：録音もしくは、再生を停止します。
17. **再生**：録音、再開の開始または再生をします。
18. **一時停止**：録音もしくは、再生を停止します。
19. **録音**：録音待機状態になります。録音中にボタンを押すと手動でトラック数を増やすことが出来ます。
20. **Sync録音**：Sync録音のオン・オフを切り替えます。
21. **フェーダー**：録音中にフェードイン・フェードアウトを付けることができます。
22. **タイマー**：タイマー再生機能のオン・オフを切り替えます。

リアパネル

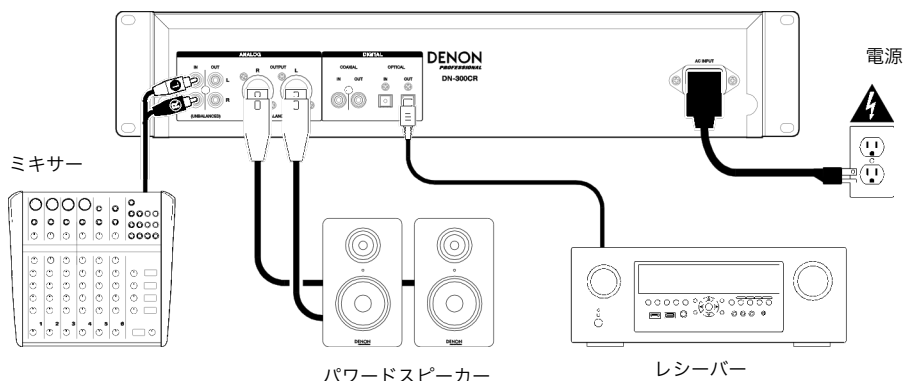


1. **電源アダプター端子**：付属の電源ケーブルを接続して、電源を供給します。
2. **アナログ入力(アンバランスRCA)**：RCAケーブルを使用して、外部のオーディオ機器を接続します。
3. **アナログ出力(アンバランスRCA)**：RCAケーブルを使用して、外部のスピーカーやサウンドシステムに接続します。
4. **アナログ出力(バランスXLR)**：XLRケーブルを使用して、外部のスピーカーやサウンドシステムに接続します。
5. **デジタル同軸入/出力**：同軸RCAケーブル(IEC60958 Type II S/PDIF互換)を使用して、入出力をサウンドシステムに接続することができます。
6. **デジタルオプティカル入/出力**：デジタルオプティカルTOSLINKケーブル(IEC60958 Type II S/PDIF互換)を使用して、入出力をサウンドシステムに接続することができます。

セットアップ

重要: ケーブルはしっかりと正しく(ステレオケーブルは左右のチャンネルを間違わずに)接続し、電源ケーブルと一緒にまとめないでください。

1. ステレオRCAケーブル、デジタル同軸ケーブル、デジタルオプティカルケーブルを使用してオーディオソースの出力端子とDN-300CRの入力端子(バランスもしくは、アンバランス)を接続します。
2. XLRケーブル、ステレオRCAケーブル、デジタル同軸ケーブル、デジタルオプティカルケーブルを使用して出力(バランス、アンバランス、デジタル)をアナログ、デジタル入力を外部のレシーバー、アンプ、アクティブモニタースピーカー等に接続します。
3. すべての接続が終わりましたら、付属の電源ケーブルを接続して電源をオンにします。
4. 入力ソースとなる器機の電源をオンにします。
5. DN-300CRの電源をオンにします。



「はじめに > 同梱品」リストに記載のないものは、別売品です。

操作方法

ディスプレイを使用する

通常の再生/録音モードからメニューへ移動するには、メニューボタンを押します。

ディスプレイに表示されたオプション内の移動するにはジョグホイールを回します。リモートコントローラーのSkipボタンでも同様の操作ができます。

ディスプレイ上の選択オプションを決定するにはジョグホイールを押します。リモートコントローラーのEnterボタンでも同様の操作ができます。設定内容を変更することができます。

ひとつ前の階層に戻るには、Menuボタンを押します。

注：全ての設定をリセットし、工場出荷時に戻すには、メニュー内の“DEFAULT”を使用します。“DEFAULT”は、ディスクが本体内にロードされていない状態でを行います。

メニュー構造

メニューモードは下記の様な構造となっています。それぞれの項目の詳細については、該当のページをご参照下さい。

メニュー項目	機能	参照箇所
PLAY MODE	再生モードを選択します。	再生 > 再生モード
AUTO CUE	Auto CUE のオン・オフ切替。	再生 > Auto Cue 機能
A CUE LEVEL	Auto CUE 音量の設定。	再生 > Auto Cue 機能
AUTO READY	Auto Ready のオン・オフ切替。	再生 > Auto Ready 機能
DIRECTORY	特定のディレクトリにある MP3 ファイルを再生します。	再生 > MP3 ファイルの再生 > ディレクトリ再生設定
VOLUME	デジタル入力レベルを調整します。	録音 > 録音をする前に > 入力レベル調整
FADE IN	フェードインの時間を設定します。	録音 > フェードイン/アウト
FADE OUT	フェードアウトの時間を設定します。	録音 > フェードイン/アウト
SYNC LEVEL	Sync 録音の音量を設定します。	録音 > Sync 録音
AUTO TRK	Autoトラックモードを選択します。	録音 > Autoトラック録音
AUTO TRK LEVEL	Autoトラックが動作する音量を設定します。	録音 > Autoトラック録音
AUTO TRK TIME	Autoトラックが動作する時間を設定します。	録音 > Autoトラック録音
M TR INCR	手動でトラック数を増やします。	録音 > 手動でトラック数を増やす
DEFAULT	工場出荷時の設定にリセットします。	操作方法 > ディスプレイを使用する

再生

ディスクスロットに挿入されたCD/CD-R/CD-RWの再生、CD-ROMに保存されているMP3ファイルの再生方法を説明します。

基本的な再生方法

1. ヘッドフォンからモニタリングをしている場合、ヘッドフォンジャックにヘッドフォンを挿し、ヘッドフォンボリュームを下げます。
2. 電源をオンにします。
3. ラベル面を上にして、ディスクをディスクスロットに挿入します。本体のディスプレイにLoadingが表示されます。ディスクが読み込まれると、最初のトラックの再生開始位置で停止します。
4. 再生ボタンを押して、再生を開始します。接続されているモニターシステムまたは、ヘッドフォンレベルを調整してモニタリングレベルを決めます。
停止ボタンで再生を停止します。再生ボタンを再度押すと再生が再開されます。
停止ボタンで再生停止します。

注：本マニュアルでの説明は再生モードがContinue Playに設定されていることが前提となっています。詳細については、**再生モード**をご参照下さい。

曲を選択する。

前の曲、次の曲へスキップする方法

1. ジョグホイールを左に回すと前の曲、右に回すと次の曲を選択できます。リモートコントローラーのSkipボタンでも同様の操作ができます。
2. 再生ボタンを押して、選択されているトラックを再生します。停止ボタンを押す事で、三択された曲の先頭でポーズされます。

特定のトラックを指定する

1. リモートコントロールの0～9のボタンを押してトラック番号を入力します。(最大3桁まで)トラック番号を入力する際には、大きい桁から入力します。例：トラック1を指定する場合には、1を押します。トラック12を指定する場合には、1を押した後に、2を押します。トラック103を指定する場合には、1を押した後に0を押して、最後に3を押します。
2. ディスプレイに表示されているトラック番号が点滅したら、リモートコントロールのOKを押して、トラックを決定します。
3. 再生ボタンを押して、選択されているトラックを再生します。

トラックサーチ

再生中(または、一時停止中)に、早送り、巻戻しを使用して、再生させたい部分をサーチすることができます。

トラックをサーチする

1. サーチしたいトラックを再生または、一時停止状態にします。
2. リモートコントローラーのSearchボタンのどちらか一方を長押しします。
3. サーチを止めるには、Searchボタンを離します。Search前の状態(再生/一時停止)に戻ります。

再生モード

DN-300CRでは、4種類の再生モード(**Continue playback** (初期設定)、**Single playback**、**Program playback**、**Shuffle playback**)が設定できます。

再生モードを選択する

リモートコントロールのPlay Modeボタンまたは、フロントパネルのメニューボタンを使用して、再生モードを切り替えることが出来ます。

- 停止中にリモートコントロールのPlay Modeボタンを押すと、再生モードメニューに移動します。ジョグホイールまたは、Skipボタンを使用して、再生モードを選択します。ディスプレイに現在選択されている再生モードが表示されます("Continue"、"Single"、"Program"、"Shuffle")。
- 希望の再生モードを選択後、Enterで決定します。再生モードは画面の左側に表示されます。

コンテニュー再生

出荷時に設定されているモードです。トラック番号順に再生がされます。

1. 停止中に再生モードをContinueに設定します。(上記の**再生モードを選択する**の項目をご参照下さい。)
2. 本体またはリモートコントロールのMEMORY ボタンを押します。

シングル再生

この再生モードでは1つのトラックのみが再生されます。

1. 停止中に再生モードをSingleに設定します。(上記の**再生モードを選択する**の項目をご参照下さい。)
2. リモートコントロールの0~9のボタンまたは、フロントパネルのジョグホイールを使用して、再生したいトラックを選択します。
3. 本体またはリモートコントロールのMEMORYボタンを押します。1トラックのみ再生され、その後停止します

プログラム再生

このモードでは、指定した順序でトラックを再生します。最大99トラックまでのプログラムが可能です。

1. 停止中に再生モードをProgramに設定します。(上記の**再生モードを選択する**の項目をご参照下さい。)
2. リモートコントロールの0~9のボタンで、プログラムしたいトラックを選択し、Enterボタンで決定します。また、ジョグホイールやSkipボタンを使用してトラックを選択し、Enterボタンを押してプログラムすることもできます。
3. ステップ2を繰り返し、他の再生したトラックをプログラムします。
同じトラックを複数回プログラムすることもできます。
リモートコントロールのClearボタンを押すと、直近にプログラムしたトラックをプログラムデータから削除できます。
4. 最後のトラックをプログラム後、Enterボタンを再度押すとプログラム再生が開始されます。
このモードでは1トラック以上プログラムされていないと再生することが出来ません。
停止中にプログラムモードから変更すると、プログラムしたデータは削除されます。
DN-300CRの電源をオフにすると、プログラムデータは削除されます。

注：100トラック以上のプログラムをしようとするとProgram Fullが画面表示されます。プログラム可能なトラックの最大数は99トラックです。

プログラムの再生時間が99分59秒を超えた場合、画面に "—:—"が表示されます。

シャッフル再生

このモードでは、トラックがランダムに再生されます。

1. 停止中に再生モードをShuffleに設定します。(上記の**再生モードを選択する**の項目をご参照下さい。)
2. 本体またはリモートコントロールのPlayボタンを押します。トラックがランダムに再生されます。

残り時間表示を変更する

フロントパネルまたは、リモートコントロールのDISPLAYボタンを押すと、3種類の残り時間表示を切り替えることができます。下記の内容が、選択した時間表示により表示されます。

- **Curr:** トラックの経過時間を表示します。
- **Tot_R:** ディスクの残り再生時間が表示されます。
- **Remain:** 再生中のトラックの残り再生時間が表示されます。

プログラムモードの場合、ディスクの総再生時間ではなく、プログラムの総再生時間が表示されます。MP3を再生する際には、経過時間(Current)が常に表示されます。Displayボタンは使用出来ません。録音中、録音待機中の時間表示については、[録音 > 時間表示を変更する](#)をご参照下さい。

タイマー再生

タイマー再生は、電源がオンになっている場合、自動的に再生を開始します。この機能を使用して、希望の時間に再生を開始したい場合には、一般に販売されている電源タイマーを使用して本体の電源をオンにご利用下さい。

1. 電源タイマーを本体に接続していると、タイマーから電源が供給されます。
2. 再生したいディスクをディスクスロットに挿入します。
3. DN-300CRのタイマー再生機能をオンにして、設定をPlayに設定してください。
4. タイマーの時間をご希望の時間に設定して下さい。DN-300CRは指定した時間になると電源がオンになり、数秒後に再生が開始されます。

リピート再生

ノーマルリピート再生

1. フロントパネルまたは、リモートコントロールのRepeatボタンを押すとリピート再生機能を有効化できます。現在選択されている時間表示と共に、リピートアイコンが画面に表示されます。
この状態の場合、全トラックがリピート再生されます。
再生中にリピートモードが有効化されると、通常通り再生され続け、最後のトラックが終了後先頭のトラックに戻り再度再生を開始します。停止中にリピートモードを有効化した場合、Playを押してリピート再生を開始します。
2. リピートモードを無効にするには、フロントパネルまたは、リモートコントロールのRepeatボタンを押しますディスプレイに表示されていたRepeatアイコンが消えます。

注：ノーマルリピートモードとプログラム再生、シングル再生、シャッフル再生をそれぞれ組み合わせた場合、プログラムリピート、シングルリピート、シャッフルリピートが自動的に有効化されます。

A-Bリピート再生

1. 再生中にA-Bリピートの開始位置(A)に指定したい部分で、リモートコントロールのA-Bボタンを押します。Aインジケーターが画面の上部に表示されます。
2. A-Bリピートの終了位置(B)に指定したい部分で、リモートコントロールのA-Bボタンを再度押します。Bインジケーターが画面の上部に表示されます。A-Bリピートの範囲が設定され、A-Bリピート再生が開始されます。

注：再生を一時停止して(A)と(B)を指定することもできます。

3. A-Bリピート機能を無効にするには、A-Bボタンを再度押します。画面に表示されている、Bインジケーターが暗くなり、A-Bリピート再生がキャンセルされます。再生中にキャンセルをした場合、A-Bリピート範囲を指定していても、それを無視して通常再生がされます。

注意：A-Bリピート範囲の指定は、停止ボタンを押すと削除されます。

A-Bリピート再生機能はトラックを超えて範囲指定をする事ができません。

Auto Cue機能

Auto Cue機能を使用した場合、トラック内にてトラックの開始位置ではなく、音の再生開始位置にCueポイントとして使用することが出来ます。

1. 『ディスプレイを使用する』にて説明されている様に、停止中にジョグホイールを押すとAuto Cueメニューにアクセスできます。また、リモートコントロールのAuto Cueボタンを押してメニューにアクセスすることも可能です。メニューでは、オン/オフの切替ができます。
2. Enterを押してAuto Cue機能を有効化し、メニューから出ます。
3. 『ディスプレイを使用する』にて説明されている様に、Cueレベルメニューを選択し、ジョグホイールを押してアクセスします。ディスプレイに“A CUE LEV> -XXdB”と表示されます。
4. ジョグホイールを回して、音の検知レベルを-72dBから-24dBの間(6dB毎)で設定します。
5. Enterを押してAuto Cue機能を有効化し、メニューから出ます。
6. トラックを選択し、Playボタンで再生を開始します。Cueポイントまで早送りされ、再生が開始されます。

Auto Ready機能

シングル再生後に次のトラックを自動的にCueし、再生待機状態となります。

1. 『ディスプレイを使用する』にて説明されている様に、停止中にジョグホイールを押すとAuto Readyメニューにアクセスできます。また、リモートコントロールのAuto Readyボタンを押してメニューにアクセスすることも可能です。メニューでは、オン/オフの切替ができます。
2. Enterを押してAuto Ready機能を有効化し、メニューから出ます。

注：Auto Cue機能と組み合わせると、Cueレベルメニューで設定した検知レベルに従ってCueがされ、再生待機となります。

MP3ファイルを再生する

MP3ファイルを再生する場合、ディスク上のすべてのmp3を再生するモードと、指定されたフォルダのみの再生をするディレクトリモードの2つを選択できます。

全てのMP3ファイルを再生する

1. ラベル面を上にして、ディスクをディスクスロットに挿入します。本体のディスプレイに[Loading]が表示されます。

注意：44.1kHz以外のサンプルレートにてコンバートされたMP3ファイルは正常に再生されません。推奨フォーマットは、サンプルレート44.1kHz ビットレート128kbps以上です。

- ディスクに保存されているMP3ファイルは、それぞれトラックとして扱われます。
 - 保存されたMP3がフォルダなどによって分けられている場合でも、すべてのファイルが読み込まれます。
 - トラック番号はルートディレクトリから順に自動的に割り当てられます。
2. Playボタンで再生を開始します。MP3ファイルが再生されます。
 - そのほかのディスクと同様の操作でトラックを選択することができます。
 - プログラム再生、リピート再生(A-Bリピート再生を含む)も同様の操作で使用可能です。

再生時のディレクトリについて

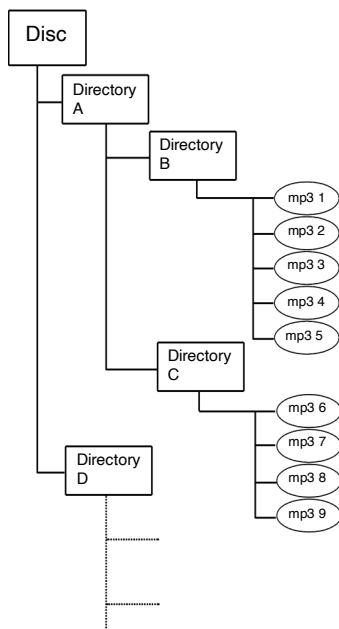
ディレクトリ(フォルダ)はCDメディアやハードディスク内で階層構造になっています。

ディレクトリモードが有効化されている場合、選択されているディレクトリ内のファイルのみが、Continue/Single再生モードの対象となります。

ディレクトリモードが無効化されている場合、ディスク上の階層構想は無視され、すべてのMP3ファイルが全再生モードの対象となります。

- ディスクに保存されているMP3ファイルは、それぞれトラックとして扱われます。
- MP3が含まれていないディレクトリは選択することができません。図に表示されているディレクトリB及びCはMP3ファイルを含んでいるため、選択できますが、ディレクトリAにはMP3ファイルが含まれていないため、選択することが出来ません。

注意：ルートディレクトリにてディレクトリモードを有効化した場合、ルートディレクトリ内のディレクトリ(図解：ディレクトリA及びディレクトリD)に含まれるMP3ファイルは再生することが出来ません。



ディレクトリ再生設定

1. 『ディスプレイを使用する』にて説明されている様に、ディレクトリを選択し、ジョグホイールを押してアクセスします。また、リモートコントロールのDIRボタンを押してメニューにアクセスすることも可能です。
2. ジョグホイールまたはSkipボタンを使用して、ディレクトリモードのオン/オフの切替ができます。ディスプレイにディレクトリアイコンが表示されます。
3. ジョグホイールまたは、Enterを押して設定を保存し、メニューから出ます。
4. ディレクトリを選択する場合、停止中にジョグホイール(または、リモートコントロールのSkipボタン)を使用して選択します。

ディスプレイに "DIR XXX" (ディレクトリナンバーを選択できます。)と上部にディレクトリ名がスクロール表示されます。

Enterを押してディレクトリ選択を決定します。

注：MP3ファイルの含まれないディレクトリは無視され、表示されません。そのため、表示されるディレクトリナンバーは連続しないことがあります。

5. 本体またはリモートコントロールのPlayボタンを押します。選択したディレクトリ内でContinue再生が開始されます。

注：再生中に、ジョグホイールまたは、リモートコントロールのSkipボタンを使用してトラックを選択することができます。

録音

録音をする前に

- CDの仕様上、99トラック以上録音することができません。また、4秒以下の曲を録音することが出来ません。
- 録音開始後、4秒以下でStopまたはPauseを押した場合、4秒経過してから録音停止/待機状態に移行します。このとき、無音が録音されます。
- 録音中にトラック数が99トラックに到達した場合、画面に“Disc Full”と“Loading”が表示され、録音が停止します。
- ディスクの録音可能時間が無くなると、最後にフェードアウトが適応されます。その後、ディスプレイに“Disc Full”が表示され、録音が停止します。
- ファイナライズされていないディスクが挿入された場合、既に録音されたものに続いて録音がされます。
- 既にファイナライズされたCD-RWに追加録音をしたい場合、ディスクをUn-finalizeして頂くと可能となります。(詳しい方法については、[CD-R/CD-RWディスク操作 > アンファイナライズ](#)をご参照下さい。)

入力音声を選択する

フロントパネルまたは、リモートコントロールのInput Selectボタンを押すと録音ソースを選択できます。ボタンを押す毎に下記の3つの録音ソースが切り替わります。下記の表記で現在選択されている録音ソースが表示されます。

- **ANALOG:** アナログ入力(アンバランスRCA)ジャックから入力された音声録音ソースとして選択されています。
- **COAXIAL:** デジタル入力(同軸デジタル)ジャックから入力された音声録音ソースとして選択されています。
- **OPTICAL:** デジタル入力(オプティカル)ジャックから入力された音声録音ソースとして選択されています。

入力音声を調整する

1. 録音ソース(例：再生機器)が選択した入力端子に接続されていることをご確認ください。
2. 録音ソースがアナログ(ANALOG表示が点灯)の場合入力ボリュームL/Rを使用して、接続された機器からの入力レベルを調節します。
3. 入力ボリュームコントロールは、アナログ入力(アンバランスRCA)ジャックから入力された音声録音信号に変換される前の音量を調整します。ディスクに録音される音量(デジタル音声信号の音量)の調節は、下記の手順に従って行って下さい。
 - i. 『ディスプレイを使用する』にて説明されている様に、ボリュームを選択し、ジョグホイールを押してアクセスします。ディスプレイに“VOL> XXXdB”と表示されます。
 - ii. ジョグホイールを回して録音レベルを選択します(-54.0~0.0~+18.0の間で調整ができます)。アナログ信号が入力されている場合、ステップ2の入力ボリュームを使用して録音レベルを調整し、デジタルボリュームを0dBに設定することを推奨いたします。デジタル信号が入力されている場合で、信号が適切ではない場合には、この設定項目を使用して適切な音量になる様調節します。
注意：デジタルボリュームを上げすぎた場合、信号がクリップする恐れがあります。
 - iii. ジョグホイールまたは、Enterを押して設定を保存し、メニューから出ます。

基本的な録音方法

1. 電源ボタンを押して、電源をオンにします。
2. ラベル面を上にして、ディスクをディスクスロットに挿入します。本体のディスプレイにLoadingが表示されます。空のディスクを挿入した場合ディスプレイにBlank Discが表示されます。
3. Input Selectボタンを押して、録音ソースを選択します(入力信号を選択する上記の入力信号を選択するをご参照下さい。)
4. Recボタンを押すと、録音待機状態になります。ディスプレイにLoadingが表示され、録音画面が表示されます。
5. 入力レベルを調節してください。(上記に記載の、[入力信号の調整](#)をご参照下さい。)メーター上部にあるOVERインジケーターが光らない範囲にて、出来るだけ大きい音量に設定してください。OVERインジケーターが点灯するとクリップが発生し、デジタルノイズが発生します。アナログ録音とは違い、デジタル録音には0を超えるヘッドルームは有りませんのでご注意ください。

注：CDを録音する場合、メニューモードにて0.0dBに設定することを推奨します。クリップせずにCDを録音することができます。

6. Playボタンで録音を開始します。接続した録音ソースから音声を入力します。録音を停止/一時停止したい場合には、下記の手順に従って下さい。
 - 録音を一時停止する場合には、Pauseを押します。Playボタンを再度押すと録音が再開されます。
 - Stopボタンで録音を停止します。ディスプレイに**Loading**が表示され、録音されたコンテンツがディスクに書き込みされます。

注意： Loading が表示され、録音されたコンテンツがディスクに書き込み中の間は、ボタン操作が無効となります。

Loading が表示されている間は、DN-300CR本体に振動を与えたり、電源を切ったりしないでください。衝撃を加えたり、電源を途中で切ってしまった場合、コンテンツが正常に書き込みされません。

時間表示を変更する

録音中(または録音待機中)にフロントパネルまたは、リモートコントロールのDISPLAYボタンを押すと3種類の時間表示を切り替えることができます。下記の内容が、選択した時間表示により表示されます。

- **Curr:** トラックの経過時間を表示します。
- **Tot_R:** ディスクの残り時間が表示されます。
- **Remain:** 現在のトラックの残り時間が表示されます。

録音中、録音待機中の時間表示については、[再生 > 時間表示を変更する](#)をご参照下さい。

フェードイン/アウト

録音中、無音から設定したの音量へのフェードインまたは、現在の音量から無音へのフェードアウトを行う事ができます。フェードイン/アウトの時間はそれぞれ個別に設定することができます。

1. 「**ディスプレイを使用する**」にて説明されている様に、FADE INを選択し、ジョグホイールを押してアクセスします。本体のディスプレイに「Time> **XXS**」が表示されます。フェードインの時間は1秒～30秒の間で設定できます。
2. ジョグホイールを回してフェードインの時間を選択します。
3. ジョグホイールまたは、Enterを押して設定を保存し、メニューから出ます。

注：ステップ1にて、FADE OUTを選択すると、同じ要領でフェードアウトの設定ができます。

4. フェードインを実行するには、録音待機状態にてフロントパネルまたは、リモートコントロールのFaderボタンを押します。ディスプレイにFIが表示され、フェードインの開始と同時に録音が始まります。
5. フェードアウトを実行するには、録音中にフロントパネルまたは、リモートコントロールのFaderボタンを押します。フェードアウトが始まり、フェードアウト中はディスプレイにFOが表示されます。

注：フェードアウト中にフェードインまたは、その逆を行う事ができます。ディスプレイには最初に実行したフェードの表示のみがされます。

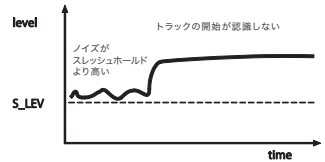
Sync録音

Sync録音は入力音量が指定した音量(Sync Level)に達した時に録音が自動的に開始され、無音を検知すると録音が自動で停止します。

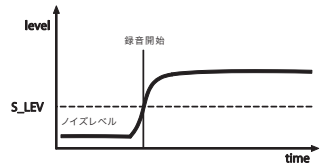
- Record-readyモード(上記の**基本的な録音方法**をご参照下さい。)に入り、Sync Recボタンを押します。ボタンを押すたびに、下記のセッティングが切り替わります。**Sync ALL** (入力ソースに対して、Sync-Recordを繰り返します。) > **Sync 1**(sync-record を一度だけ実行します。) > **Sync OFF** (sync-recordが無効となります。)
- 必要に応じて、Sync Levelを調整できます。
 - 「**ディスプレイを使用する**」にて説明されている様に、Sync Levelメニューを選択し、ジョグホイールを押してアクセスします。また、リモートコントロールのSync Levelボタンを押してメニューにアクセスすることも可能です。ディスプレイに“SYNC LEVEL > -XXdB”と表示されます。
 - ジョグホイールを回してSyncレベルを選択します。設定できる範囲は-72dB~-24dB(6dB毎)です。
 - ジョグホイールまたは、Enterを押して設定を保存し、メニューから出ます。

Syncレベルの設定を高くしすぎると、静かに始まる楽曲の始まりの部分が録音されない可能性があります。

逆にSyncレベルが低すぎるとアナログソースのノイズ音量がSyncレベルより高く、正常にSync録音が動作せず録音が正しく開始されない可能性があります。

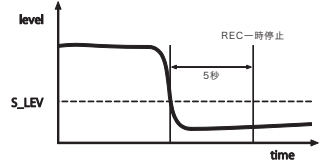


- 入力ソース機器を再生させます。入力ソースが再生され、入力音声ステップ2で設定したSyncレベルを超えると、3秒後に録音が始まります。



DN-300CRが5秒間の無音を検知すると、自動的に録音待機状態に移行します。Sync録音設定にてSync1を選択していた場合、Sync録音設定は破棄されます。

注：このマニュアルでは、Syncレベル以下の音声信号を無音として扱います。



- Sync録音をキャンセルするには、Sync Recボタンを押してSync Offを選択してください。

Tips:

- Sync1が選択されている場合、Pauseボタンを押すとディスクが停止し、Sync録音の設定が破棄されます。
- Sync ALLが選択されている場合、Pauseボタンを押すと録音待機モードに移行し、Sync録音の設定は保存されます。

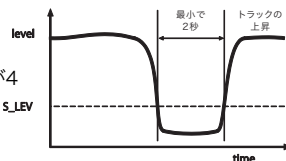
停止ボタンを押した場合、どちらのSync録音モードでも設定が破棄されます。

録音 > Autoトラック録音

Autoトラック録音は、指定した条件が満たされた時に、新しいトラックを自動的に増やします。下記の手順で、Autoトラックモードを選択します。

1. **「ディスプレイを使用する」**にて説明されている様に、AUTO TRKを選択し、ジョグホイールを押してアクセスします。また、リモートコントロールのA_TRKボタンを押してメニューにアクセスすることも可能です。
2. ジョグホイールを使用して、下記の中からモード選択をします。

- **Off:** Autoトラック録音が無効になります。
- **Level:** Auto Track Levelにて指定したレベルより低いレベルが4秒以上経過した後指定したレベルを超えるとトラックナンバーが更新されます。Auto Track LevelはメニューのAUTO TRK LEVELにて指定します。
- **Digital:** デジタルソース(CD/DAT/MD)を録音する場合、ソース側のトラック境界を検知すると、トラックナンバーが更新されます。
- アナログソースをデジタルで録音または、上記以外のデジタルソースを録音する場合、上記で設定したレベルを基準に入力レベルに従ってトラックナンバーが更新されます。



注: デジタル (COAXIAL/OPTICAL) 入力を行った場合においても、正しくトラックマークが認識されない場合があります。その際は、デジタル入力レベルを上げるか、Autoトラック録音を無効にして手動でトラックマークを記録する方法をお勧めいたします。※デジタル信号内のトラックマークは識別されません。

- **Minute:** 指定した録音時間が経過すると自動でトラックナンバーが更新されます。録音時間の指定はメニューのAUTO TRK TIMEより指定できます。
3. Autoトラックモードにてレベルを選択している場合、下記の手順に従ってAutoトラックレベルを指定します。
 - i. **「ディスプレイを使用する」**にて説明されている様に、AUTO TRK LEVELメニューを選択し、ジョグホイールを押してアクセスします。また、リモートコントロールのA_TRK Levelボタンを押してメニューにアクセスすることも可能です。
 - ii. ジョグホイールを回して、音の検知レベルを-72dBから-24dBの間(6dB毎)で設定します。
 - iii. ジョグホイールまたは、Enterを押して設定を保存し、メニューから出ます。
 4. AutoトラックモードにてMinuteを選択している場合、下記の手順に従ってトラックごとの時間を指定します。
 - i. **「ディスプレイを使用する」**にて説明されている様に、AUTO TRK TIMEメニューを選択し、ジョグホイールを押してアクセスします。本体のディスプレイに**「Time> XXm」**が表示されます。
 - ii. ジョグホイールを回して、録音時間を1~30分の間で指定します。
 - iii. ジョグホイールまたは、Enterを押して設定を保存し、メニューから出ます。録音中に入力信号が指定した状態になった場合または、指定した録音時間が経過するとトラックナンバーが更新されます。

注: 録音中にAUTO TRK TIMEの設定変更は行えません。

手動でトラック数を増やします。

1. **「ディスプレイを使用する」**にて説明されている様に、M TR INCRメニューを選択し、ジョグホイールを押してアクセスします。メニューでは、オン/オフの切替ができます。
2. ジョグホイールを使用してオンを選択します。
3. ジョグホイールまたは、Enterを押して設定を保存し、メニューから出ます。
4. 別トラックにしたいポイントでRecボタンを押します。トラックナンバーが更新されます。

注: トラック数が99に到達するとこのボタンは無効になります。

録音ミュート

この機能を使用すると、無音ギャップを簡単に作成できます。録音中にリモートコントロールのRec Mute ボタンを押すと無音ギャップを作成できます。ディスプレイにRec Mute表示がされ、無音の録音が始まります。およそ4秒後、録音待機状態に移行します。

注：録音ミュート機能は、リモートコントロールのみから使用できます。

CD-R/CD-RWディスク操作

注意：ファイナライズ、アンファイナライズ、ディスク/トラック削除の操作中に電源をオフにしないでください。電源を誤ってオフにしてしまった場合、ディスク上のデータが破損または、ディスク自体が使用不能になる可能性があります。

この章では、CD-R/CD-RWディスクを使用して、録音データを一般的なCDプレーヤーで再生できるCDにファイナライズする方法、CD-RWに保存されたトラック、または全体を削除する方法を説明します。

ファイナライズ：

ファイナライズとは、TOC(テーブル・オブ・コンテンツ 曲数、各トラックの再生開始時間などのデータ)をCD-R/CD-RWメディアに書き込む作業です。

DN-300CRにて録音されたディスクは、DN-300CRであればファイナライズせずに再生可能ですが、TOCの書き込みをしないと一般的なCDプレーヤーで再生は出来ません。

通常、ファイナライズされたCD-R/CD-RWメディアには追加録音等は出来ません。CS-RWの場合ファイナライズを行うことで、メディアに追加レコーディングをすることができます。

- 録音済みのCD-R/CD-RWメディアをディスクスロットへ挿入します。
- 停止中に、本体またはリモートコントロールのFinalizeボタンを押します。本体のディスプレイにFinalizeが表示されます。
操作をキャンセルする場合、Finalizeボタンを再度押してください。
- Enterボタンを押します。本体のディスプレイにYes?と表示されます。
操作をキャンセルする場合、Menuボタンを再度押してください。
- 操作を行う場合、Enterボタンを再度押してください。ディスプレイにLoadingが表示されファイナライズが開始されます。ファイナライズ中は画面にFinalizingと表示されます。
ファイナライズが完了すると、ディスプレイにLoadingと表示され、その後メイン画面に移動します。ファイナライズ中は、すべてのボタン操作が無効化されます。

アンファイナライズ

アンファイナライズは一度ファイナライズされたCD-RWに追加録音ができる様にする操作です。

- 録音済みのCD-RWメディアをディスクスロットへ挿入します。
- 停止中に、本体またはリモートコントロールのEraseボタンを押し、ジョグホイール(またはリモートコントロールのSkipボタン)を使用してUNFINALIZEを選択します。
操作をキャンセルする場合、Eraseボタンを再度押してください。
- Enterボタンを押します。本体のディスプレイにYes?と表示されます。
操作をキャンセルする場合、Menuボタンを再度押してください。
- 操作を行う場合、Enterボタンを再度押してください。ディスプレイにLoadingが表示されアンファイナライズが開始されます。アンファイナライズ中は画面にUnfinalizingと表示されます。
アンファイナライズが完了すると、ディスプレイにLoadingと表示され、その後メイン画面に移動します。

ディスクの削除

この操作を行うと、CD-RWに録音されたトラックがすべて削除され、空の状態のディスクとなります。

注意：一度削除したデータを戻すことは出来ません。重要なデータを誤って削除しない様、この操作については最大限の注意を払って行って下さい。

- 録音済みのCD-RWメディアをディスクスロットへ挿入します。
- 停止中に、本体またはリモートコントロールのEraseボタンを押し、ジョグホイール(またはリモートコントロールのSkipボタン)を使用してERASE DISCを選択します。
操作をキャンセルする場合、Eraseボタンを再度押してください。
- Enterボタンを押します。本体のディスプレイにYES?と表示されます。
操作をキャンセルする場合、Menuボタンを再度押してください。
- 操作を行う場合、Enterボタンを再度押してください。ディスプレイにLoadingが表示されディスクの削除が開始されます。ディスクの削除中は画面にErasingと表示されます。
ディスクの削除が完了すると、ディスプレイにLoadingと表示され、その後メイン画面に移動します。

トラックの削除

この操作で、CD-RWに記録された特定のトラック及び後続のトラックを削除することができます。

注意：一度削除したトラックを元に戻すことは出来ません。重要なデータを誤って削除しない様、この操作については最大限の注意を払って行って下さい。

- 録音済みのCD-RWメディアをディスクスロットへ挿入します。
- 停止中に、本体またはリモートコントロールのEraseボタンを押し、ジョグホイール(またはリモートコントロールのSkipボタン)を使用してERASE DISCを選択します。
操作をキャンセルする場合、Eraseボタンを再度押してください。
- Enterボタンを押します。ディスプレイに**"Erase XX-XX"**(削除される最初のトラック-錯書される最後のトラック)が表示されます。

注：ディスクの中間にあるトラックのみを削除することは出来ません。

- 操作をキャンセルする場合、Eraseボタンを再度押してください。
- ジョグホイール(または、リモートコントロールのSkipボタン)を使用して削除される最初のトラックを選択します。
操作をキャンセルする場合、Eraseボタンを再度押してください。
 - Enterボタンを押します。本体のディスプレイにYes?と表示されます。
操作をキャンセルする場合、Menuボタンを再度押してください。
 - 操作を行う場合、Enterボタンを再度押してください。ディスプレイにLoadingが表示されトラックの削除が開始されます。ディスクの削除中は画面にErasingと表示されます。
ディスクの削除が完了すると、ディスプレイにLoadingと表示され、その後メイン画面に移動します。

その他の情報

CD

オーディオCDを再生する際には、下記の点をご確認ください。

- DN-300Cは、音楽CD、CD-R、CD-RWを再生することができます。ディスクのファイルシステムは、CD-DA (CD-Text)または、CD-ROM (ISO9660)です。
- 円形以外のディスク(ハート形、多角形など、図をご参照下さい)や、テープなどで補修されたディスクを再生させないでください。これらのディスクを使用すると、本体が故障する可能性があります。
- CDの作成に使用したソフトウェアやその他の条件により、再生ができないCDが有る場合があります。



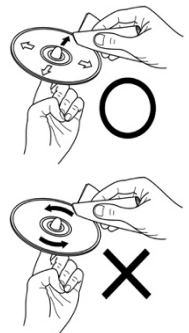
オーディオファイルCDを再生する際には、下記の点をご確認ください。

- 書き込みソフトウェアの対応フォーマットはISO9660 Level1、Level2またはJolietです。
- フォルダはルートディレクトリーを含めて8階層、最大255個フォルダまでです。
- オーディオファイルは最大999個までです。CDに999個以上のオーディオファイルが含まれている場合正しく表示及び再生ができない可能性がございます。
- ファイル名、フォルダ名に使用できる文字数は255文字です。大文字、小文字、数字、シンボルを表示することができます。日本語は表示できません。ファイル名が“.”から始まっているファイルは表示されません。
- 著作権保護のされているファイルは再生することができない場合があり、Unknown Fileとして表示される場合があります。
- CDの作成に使用したソフトウェアやその他の条件により、再生ができないCDが有る場合があります。
- CD上のオーディオファイルを再生する場合、下記のタグデータに対応しております。
 - ID3 tags: Version 1.x - 2.4
 - ビットレート: 128 kbps 以上
 - META-tags: タイトル、アーティスト名、アルバム名
 - 形式: MPEG1 Audio Layer 3
 - サンプルレート: 44.1 kHz
 - 拡張子: .mp3

ディスクをケースから取り出す際には傷をつけない様ご注意ください。ディスクを曲げたり熱を加えないでください。中心の穴を広げないでください。レーベル面(印刷面)にペンなどで文字を書いたりしないでください。

ディスクに指紋や汚れが付いたときは、市販のディスククリーニングセットまたは、柔らかい布などを使用してください。内周から外周方向へ軽く拭きます。円周にそっては拭かないでください。レコードスプレーや帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品は使用しないでください。

ご使用後は、必ずディスクを取り出し、ほこり、傷、変形などを避けるため。必ずケースに入れてください。直射日光が長時間あたる場所、湿気・ほこりなどが多い場所、暖房器具などの熱があたる場所に置かないでください。



リモートコントロール

取扱い上の注意

- リモコン受信部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または紫外線があたると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- リモートコントロールを使用する際に、他の機器に予期せぬ動作を引き起こす場合がございます事を予めご了承ください。

電池の入れ方

リモートコントロールの裏ぶたを開け、単4電池2本を表示どおりに+側-側を合わせて正しく入れてください。

電池の交換時期：

リモートコントロールを本機の近くで操作しても動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。

電池に関する注意

電池の誤った使用は破損・液漏れの恐れがあります。下記の注意を良くお読みください。

- 電池収納部に記載されている+側-側に合わせて正しく電池が入っているかご確認ください。
- 新しい電池と使用済みの電池を混ぜたり、違う種類の電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- リモートコントロールを1か月以上の長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れが起こったときは、乾電池収納部内についた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。

トラブルシューティング

問題が発生した場合は、以下の項目を確認して下さい

- 全てのケーブル、接続機器が正しく確実に接続されていることをご確認ください。
- 本書ユーザーガイドに記載されている通りに本機を使用していること。
- その他のデバイスやメディアが正しく動作していること。
- 本体が正常に動作していないと思われる場合は、以下の表で問題と解決方法を確認して下さい。

問題	対処法
電源が入らない。	電源が正しく接続されていることを必ずご確認ください。
CD スロットに CD が挿入できない。	通電している電源に本機が正しく接続されていることを必ずご確認ください。 Eject ボタンを押して、既に CD が入っていないかご確認ください。
CD が挿入されているにも関わらず No Disc が表示される場合	Eject ボタンを再度押して CD を再挿入してください。
CD の特定の部分が正常に再生されない場合、	
Play ボタンを押しても再生が開始されない場合	乾いた布や市販の CD クリーナーを使用して CD の汚れを拭き取ってください。 他の CD を挿入してください。
本機から音が出ない、または音が歪んでいる。	全てのケーブル、デバイス、またはメディアの接続が確実に正しいことを確認してください。 ケーブルが損傷していないことを確認してください。 スピーカーやミキサーなどの設定が正しいことを確認してください。
CD-R/CD-RW が再生出来ない。	品質の高い CD をご利用下さい。 乾いた布や市販の CD クリーナーを使用して CD の汚れを拭き取ってください。 CD のフォルダ階層構造が、対応している構造になっていることをご確認ください。：255 フォルダ(ルートを含め最大 8 階層、最大 999 ファイル) CD に MP3 ファイルが含まれていることをご確認ください。他のファイル形式は再生出来ません。

エラーメッセージ

下記のメッセージが表示された場合、Stopボタンを押して、エラーの対処を行って下さい。

メッセージ	原因/ 対処法
Can't Rec	録音できません。CD-RW の場合、ディスクのコンテンツを削除、または録音可能な別のディスクを使用してください。
Disc Full	録音可能な残り時間/残りトラック数が無いため録音が出来ません。
D-In Unlock	Digital In jack にデジタル機器が接続されていない(接続されたデジタル機器の電源がオフになっている)。デジタル機器の接続状態、電源をご確認ください。 このメッセージはデジタルインに入力されているオーディオのサンプルレートが44.1 kHz ではない場合にも表示されます。
Program Empty	プログラムされていません。
Program Full	既に 99 曲プログラムしています。
Can't Edit	操作制限のため、編集操作ができません。
Can Not Decode	MP 3 ファイルの再生に失敗しました。

操作中のメッセージ

メッセージ	原因
No Disc	ディスクが挿入されていません。
Blank Disc	録音されていないディスクが挿入されています。
Loading	読み込み、書き込みの操作が進行中です。

付録

技術仕様

デジタルシステム	
システム	CDプレーヤー/レコーダー
対応デバイスフォーマット/ ファイルシステム	ディスク：CD、CD-R、CD-R-DA、CD-RW、CD-RW-DA ファイルシステム：CD-DA (CD-Text)、CD-ROM (IOS9660)
対応ファイル形式	MP3： サンプルレート：44.1kHz ビット深度：16bit ビットレート：128kbps 以上 形式：MPEG1 Audio Layer3 拡張子：mp3
ファイル/フォルダ制限	最大ディレクトリ数：255 最大ディレクトリ階層数：8 最大MP3ファイル数：999 最長ファイル/フォルダ/タグ名文字数 255 文字
ID3 tags:	MP3v1.x~2.4

オーディオ	
オーディオチャンネル	2 (ステレオ)
周波数特性:	録音：10Hz~20kHz(+2.0dB) 再生 10Hz~20kHz(+1.5dB)
ダイナミックレンジ	録音：> 85 dB (10 Hz ~ 20 kHz, A-weighted) 再生：> 90 dB (10 Hz ~ 20 kHz, A-weighted)
S/N比	録音：> 90 dB (1 kHz, 0 dB, A-weighted) 再生：> 95 dB (1 kHz, 0 dB, A-weighted)
チャンネルセパレーション	録音：> 90 dB (1 kHz, 0 dB, A-weighted) 再生：> 90 dB (1 kHz, 0 dB, A-weighted)
歪率	録音：< 0.008% 再生：< 0.008%
全高調波歪率	< 0.01% (1 kHz, 0 dB, A-weighted)
アナログ入力 (アンバランス RCA)	定格レベル：-10 dBV (-16 dBV フルスケール時) 最小入力レベル：-19 dBV (もしくはそれ以上) 入力インピーダンス：22 K Ω (\pm 10%)
アナログ出力 (アンバランス RCA)	定格レベル：-10 dBV (\pm 2 dBV) 最大出力レベル：6 dBV (\pm 2 dBV) 出力インピーダンス：600 K Ω (\pm 10%)
ヘッドフォン出力	32 Ω 、220 mW またはそれ以上

一般	
動作環境	動作温度：5 ～ 35 °C 動作湿度：25 ～ 85%、結露(つゆつき)なし
電源	端子 IEC 入力ボルテージ 100～230 VAC、50/60 Hz 消費電力：45 W
サイズ (width x depth x height)	449 x 227 x 89 mm(ラックイヤー取付時)
重量	9 lbs 4.06 kg

仕様は予告なしに変更になる場合があります。

商標およびライセンス

Denonは、D&M Holdings Inc.の商標で、米国及びその他の国々で登録されています。

その他、すべての製品名や会社名、商標またはトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

無料修理規定

- 保証期間内に故障して、無料修理をご依頼の場合は、お買上げの販売店にご依頼の上、本書をご提示ください。
- ご贈答品などで本書に記入してあるお買上げ販売店に修理をご依頼できない場合には弊社カスタマーサポート部へご相談ください。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) ご使用上の誤り、及び不当の修理や改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買上げ後の取付け場所の移動、落下などによる故障および損傷。
 - (ハ) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷。
 - (ニ) 消耗部品を取替える場合。
 - (ホ) 本書のご提示がない場合。
 - (ヘ) 本書にご愛用者名、お買上げ日、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- inMusic Japan は、製品の使用不可能または不具合に基づく損害、また法律の定める範囲内での人身傷害を含める、いかなる二次的、及び間接的な損害賠償の責任を負いません。保証条件や本保証に基づき inMusic Japan が負う責任は、販売国の国内でのみ有効です。本保証で定められた修理は、inMusic Japan でのみ行われるものとします。

* この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後についてご不明の場合は、お買上げの販売店または弊社カスタマーサポート へご相談ください。

保証書	
製品名：	
製品番号：	
ご購入日：	
保証期間： ご購入日から一年間	
お客様	販売店
お名前：	販売店名：
ご住所：	ご住所：
お電話：	お電話：

inMusic Japan 株式会社 カスタマーサポート
〒106-0047 東京都港区南麻布3-1 9-2 3 オーク南麻布ビルディング 6F
お問い合わせ：denonpro.jp/support

- 本書に記入のない場合は、有効となりませんので、直ちにお買上げの販売店にお申し出ください。
- 本書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。